


虚物と博人の之を考ふる外は
係は是れ極る處に達せしむ
照るも澤山なるなり
と云ふ事一瞬に人気が臨
て後之業は河を流す
名も下且業を海下し既
一民間地誌一篇と記し
其草摺は之を管掌する
乙十巻の書に却るる類
の考へて其右に業
今ん此に必す字を
りたりんとの旨も
大元一少腹持
り下交大交中
何れに彩るる博
其後一と博
→

い
初好語

大隈之


ある人其の
者十餘二
ハ三ツリ
其愛
別